

- students in a Japanese university : Evaluating Chinese and non-Chinese students. 第60回 北海道公衆衛生学会. (平成20年11月13-14日、札幌)
118. Gamage, CD., Navaratnasingam, J., Nwafor, C., Matibag, G.C., Tamashiro, H. Epidemiology of Human Leptospirosis in Sri Lanka. 第60回 北海道公衆衛生学会. (平成20年11月13-14日、札幌)
119. Nwafor, C., Gunsekera, A., Kamigaki, T., Ditangco, RA., Matibag, GC., Kanda, K., Obayashi, Y., Tamashiro, H. Profile and rabies management of adult animal-bite patients in a Sri Lankan hospital. 第60回 北海道公衆衛生学会. (平成20年11月13-14日、札幌)
120. 神田浩路、大内淳也、孫芸先、増地あゆみ、大林由英、玉城英彦. 札幌市民を対象とした感染症等のリスク認知と知識の関連について一郵送による調査. 第17回日本疫学会学術総会. (平成19年1月26-27日、広島)
121. 増地あゆみ、大内淳也、神田浩路、孫芸先、大林由英、玉城英彦. 感染症およびバイオテロに関する知識とリスク認知の関連一札幌市民を対象とした郵送調査とインターネット調査一. 第17回日本疫学会学術総会. (平成19年1月26-27日、広島)
122. 保田玲子、後藤ゆり、奥村芳子、玉城英彦. 北海道天塩町の酪農家の腰痛強度と作業内容・セルフケアの関連. 第66回日本公衆衛生学会総会. (平成19年10月24-26日、松山)
123. Kanda, K., Ditangco, R.A., Matibag, G.C., Obayashi, Y., Silva, K.T., Tamashiro, H. HIV/AIDS and discrimination among construction workers in Sri Lanka - A baseline KAP survey. 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. (平成19年11月21-25日、埼玉)
124. Kanda, K., Matibag, G.C., Ditangco, R.A., Obayashi, Y., Silva, K.T., Tamashiro, H. Knowledge, Attitude, and Practice (KAP) on HIV/AIDS among construction workers in Sri Lanka. 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. (平成19年11月21-25日、埼玉)
125. 後藤ゆり、山田公平、庄子康、高橋正義、玉城英彦. 北海道における山菜採り中の事故に関する調査: その1. 事故発生状況の記述疫学的分析. 第58回 北海道公衆衛生学会. (平成18年8月31日-9月1日、旭川)
126. 庄子康、山田公平、後藤ゆり、高橋正義、玉城英彦. 北海道における山菜採り中の事故に関する調査: その2. 遭難救助などにかかる費用面からの分析. 第58回 北海道公衆衛生学会. (平成18年8月31日-9月1日、旭川)
127. 神田浩路、大内淳也、孫芸先、増地あゆみ、大林由英、玉城英彦. 札幌市民を対象とした感染症等についてのリスク認知に関する調査: (1) 郵送による調査. 第58回 北海道公衆衛生学会. (平成18年8月31日-9月1日、旭川)
128. 孫芸先、神田浩路、大内淳也、増地あゆみ、大林由英、玉城英彦: 札幌市民を対象とした感染症等についてのリスク認知に関する調査: (1) インターネットによる調査. 第58回 北海道公衆衛生学会. (平成18年8月31日-9月1日、旭川)
129. 大内淳也、神田浩路、孫芸先、増地あゆみ、大林由英、玉城英彦: 札幌市民を対象とした感染症等についてのリスク認知に関する調査: (1) 郵送とインターネ

- ット調査法の比較. 第 58 回 北海道公衆衛生学会. (平成 18 年 8 月 31 日-9 月 1 日、旭川)
130. Chowdhury, ABMA., Matibag, GC., Eskandarieh, S., Sun, YX., Tamarakar, R., Tamashiro, H. Bridging the digital divide in health promotion among developing countries through the Supercourse Lecture Library: with special reference to zoonoses. 58th Hokkaido Public Health Conference. (平成 18 年 8 月 31 日-9 月 1 日、旭川)
131. 後藤ゆり、保田玲子、大内淳也、孫芸先、柿崎美穂、奥村芳子、玉城英彦. 北海道 T 町の酪農家の腰痛に関する疫学研究. 第 65 回 日本公衆衛生学会総会. (平成 18 年 10 月 25-27 日、富山)
132. 神田浩路、大内淳也、孫芸先、増地あゆみ、大林由英、玉城英彦. 感染症や災害、テロ等のリスクに対する認知の調査 (1) 郵送法. 第 65 回 日本公衆衛生学会総会. (平成 18 年 10 月 25-27 日、富山)
133. Sun, Y., Kanda, K., Ohuchi, J., Masuchi, A., Obayashi, Y., Tamashiro, H. Risk perception of infectious diseases and other issues (2) Internet survey. 第 65 回 日本公衆衛生学会総会. (平成 18 年 10 月 25-27 日、富山)
134. 勝亦百合子、玉城英彦. 地域在住高齢者における抑うつ症状とストレスのある出来事との関連性. 第 71 回 日本民族衛生学会. (平成 18 年 11 月 9-10 日、那覇)
135. Matibag, GC., Kamigaki, T., Kumarasiri, PVR., Wijewardana, TG., Kalupahana, AW., Dissanayake, DRA., De Silva, DDN., Gunawardena, GSP. DeS., Obayashi, Y., Takiguchi, T., Sawa, H., Takashima, I., Umemura, T., Tamashiro, H. Rabies in Sri Lanka: KAP survey on rabies and pet care in Kandy District, Sri Lanka, 2006. 47th Annual Meeting of Japanese Society of Tropical Medicine and 21st Annual Meeting of Japan Association for International Health Meeting Joint Conference. (平成 18 年 9 月、長崎)
136. Matibag, GC., Kamigaki, T., Wijewardana, TG., Kumarasiri, PVR., Kalupahana, AW., Dissanayake, DRA., De Silva, DDN., Gunawardena, GSP., DeS., Obayashi, Y., Takiguchi, T., Sawa, H., Takashima, I., Umemura, T., Tamashiro, H. Evaluation of health-seeking behavior among exposed persons in the community, Central Province, Sri Lanka. 47th Annual Meeting of Japanese Society of Tropical Medicine and 21st Annual Meeting of Japan Association for International Health Meeting Joint Conference. (平成 18 年 9 月、長崎)
137. Matibag, GC., Kamigaki, T., Wijewardana, TG., Kumarasiri, PVR., Kalupahana, AW., Dissanayake, DRA., De Silva, DDN., Gunawardena GSP DeS., Obayashi, Y., Takiguchi, T., Sawa, H., Takashima, I., Umemura, T., Tamashiro, H. Rabies in Sri Lanka: Knowledge, attitudes, practices and beliefs among community-dwellers. Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development. (平成 18 年 8 月、札幌)
138. Matibag, GC., Kamigaki, T., Wijewardana, TG., Kumarasiri, PVR., Kalupahana, AW., Dissanayake, DRA., De Silva, DDN., Gunawardena, GSP DeS., Obayashi, Y., Takiguchi, T., Sawa, H.,

- Takashima, I., Umemura, T., Tamashiro, H. Rabies in Sri Lanka: Assessing health-seeking behavior following animal bite injuries. Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development. (平成 18 年 8 月、札幌)
139. 佐野 (嶋) 貴子: 在宅検査の現状と課題 - 郵送検査の現状と今後の課題 - 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム. (平成 19 年 11 月 28 日-30 日, 広島)
140. 嶋 貴子: 妊婦 HIV 検査実施率および検査偽陽性とその対応. 日本性感染症学会第 19 回学術大会シンポジウム. (平成 18 年 12 月 9-10 日, 金沢)
141. 谷口晴記, 塚原優己, 川戸美由紀, 源河いくみ, 山田里佳, 大金美和, 嶋 貴子, 和田裕一, 喜多恒和, 稲葉憲之: 我が国の HIV 感染妊娠の将来予測 (中・長期展望): 日本性感染症学会第 19 回学術大会シンポジウム. (平成 18 年 12 月 9-10 日, 金沢)
142. 嶋 貴子: スクリーニング検査偽陽性の現状と対策. 第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 18 年 11 月 30 日-12 月 2 日, 東京)
143. 嶋 貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 相楽裕子, 今井光信: 新しい HIV 迅速抗体検査キットの検討. 第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 18 年 11 月 30 日-12 月 2 日, 東京)
144. 嶋 貴子: HIV 検査の全国の状況 - 即日検査を中心に -. 第 52 回神奈川県公衆衛生学会シンポジウム. (平成 18 年 11 月 14 日, 横浜)
145. 加藤真吾「サテライト公演: HIV 感染症診断のガイドライン 保健所等における HIV 検査のガイドライン - 妊婦検診を含めて」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
146. 植田知幸, 加藤真吾「休止期 CD4+T 細胞における HIV-1 感染防御機構の解析」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
147. 花房秀次, 小島賢一, 加藤真吾, 兼子 智, 高桑好一, 久慈直明, 木内 英, 加嶋克則, 吉村泰典, 田中憲一, 和田裕一「HIV 感染夫婦の生殖補助医療の実績と安全性: HIV 陽性同士の生殖補助医療プロトコール」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
148. 須藤弘二, 加藤真吾「PCR と LC-MS を組み合わせた薬剤耐性変異定量法の検討」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
149. 池野 良, 高木律男, 児玉泰光, 田邊嘉也, 手塚貴文, 佐藤みさ子, 加藤真吾「リアルタイム PCR 法 (TaqMan 法) を用いた唾液中 HIV-1 RNA/DNA 量と血清中 HIV-1 RNA 量の比較検討」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
150. 加藤真吾, 榎本 茜, 田中理恵「正しい血中ウイルス量を求める方法の検討」第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2008 年 11 月 26 日-28 日, 大阪)
151. 加藤真吾「教育講演: HIV 定量法の進歩とその臨床応用 (生殖医療への応用)」第 21 回日本エイズ学術集会 (2007 年 11 月 28-30 日, 広島)
152. 花房秀次, 小島賢一, 加藤真吾, 兼子智, 高桑好一, 久慈直昭, 木内英, 加藤克則, 吉村泰典, 田中憲一「HIV 感染者夫婦の生殖補助医療」第 21 回日本エイズ学術集会 (2007 年 11 月 28-30 日, 広島)
153. 田中理恵, 栗原健, 杉浦互, 加藤真吾「HPLC によるダルナビルの血中濃度測定法の開発」第 21 回日本エイズ学術集

- 会 (2007年11月28-30日、広島)
154. 加藤真吾、須藤弘二「LC-MSによる薬剤耐性変異の検出」第21回日本エイズ学会学術集会 (2007年11月28-30日、広島)
155. 浜武牧子、浦野恵美子、花房秀次、加藤真吾、Tee Kok Keng、武部豊、山本直樹、駒野淳「血友病患者におけるエイズ長期未発症例における高力価中和抗体の存在と標的部位の同定」第20回日本エイズ学会学術集会 (2006年11月30日-12月2日、東京)
156. 花房秀次、木内英、太田未緒、和田育子、小島賢一、加藤真吾「血友病 HIV/HCV 肝炎の現状と PEG IFN 治療の課題」第20回日本エイズ学会学術集会 (2006年11月30日-12月2日、東京)
157. 加藤真吾、田中理恵、栗原健、田上正、前田憲昭「唾液を用いた抗 HIV 薬の薬物動態の検討」第20回日本エイズ学会学術集会 (2006年11月30日-12月2日、東京)
158. 西澤雅子、加藤真吾、三浦秀佳、山本直樹、杉浦互「細胞内における抗 HIV 薬 (プロテアーゼ阻害剤) の薬剤濃度のモニタリング」第20回日本エイズ学会学術集会 (2006年11月30日-12月2日、東京)
159. 田上正、北川善政、連利隆、池田正一、加藤真吾、田中理恵、前田憲昭「唾液中の HIV DNA の定量」第20回日本エイズ学会学術集会 (2006年11月30日-12月2日、東京)
160. 岩谷靖雅、吉居廣朗、武田 哲、杉浦 互: HIV-1 Vif 依存的な APOBEC3G のユビキチン化サイトの同定. 第56回日本ウイルス学会学術集会. 2008年10月26~28日、岡山
161. 宮崎菜穂子、松下修三、藤井 毅、岩本愛吉、杉浦 互: 既治療患者における薬剤耐性 (多剤耐性) HIV の現状調査. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
162. 巽 正志、梅木優子、竹川菜穂、松田昌和、橋本 修、西澤雅子、石古博昭、杉浦 互、山本直樹: 薬剤耐性ウイルスの感染性分子クローンを軸にした Genotype と Phenotype をつなぐ実験解析系. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
163. 岩谷靖雅、吉居廣朗、武田 哲、杉浦 互: APOBEC3G の HIV-1 Vif に依存したユビキチン化サイトに関する研究. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
164. 柴田潤子、岩谷靖雅、任 鳳蓉、田中 博、杉浦 互: HIV-1 ゲノム RNA における poly (A) 付加部位に関する研究. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
165. 大出裕高、横山 勝、佐藤裕徳、伊部史朗、藤崎誠一郎、間宮均人、濱口元洋、杉浦 互、横幕能行: HIV-1 プロテアーゼにおける耐性変異 L89V の立体的影響. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
166. 椎野禎一郎、貞升健志、長島真美、杉浦互: HIV-1 薬剤耐性変異の感染者集団における固定/消失時間の解析. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
167. 正岡崇志、梁 明秀、巽 正志、杉浦 互、森下 了、澤崎達也、山本直樹: 酵素活性を指標とした新規 HIV プロテアーゼ薬剤耐性検査法の開発. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪
168. 星野忠次、辰巳絢子、篠原祐子、大出裕高、杉浦 互: コンピューターによる薬剤耐性 HIV-1 に対する薬効予測の試み. 第22回日本エイズ学会学術集会. 2008年11月26~28日、大阪

169. 横幕能行、大出裕高、間宮均人、濱口元洋、伊部史朗、藤崎誠一郎、藤崎菜恵子、金田次弘、杉浦 互: Enfuvirtide (T-20) +raltegravir (RAL) +darunavir (DRV) +tetravirine(TMC125)+lamivudine (3TC) の多剤高度耐性 HIV-1 感染症に対する治療効果. 第 22 回日本エイズ学会学術集会. 2008 年 11 月 26~28 日, 大阪
170. 柴原 健、吉野宗宏、佐野俊彦、小島賢一、日笠 聡、杉浦 互、白阪琢磨: 拠点病院における抗 HIV 療法と薬剤関連アンケート調査結果 (第 4 報). 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
171. 中里俊文、高村 斉、大出裕高、清水 愛、杉浦 互、星野忠次: L90M 変異体に阻害作用をもつ抗 HIV 薬の設計・合成. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
172. 羽生勇一郎、山本紀生、日吉真照、黒崎直子、石川晃一、松田昌和、岡田誠治、杉浦 互、山本直樹、高久 洋: shRNA, decoy RNA 共発現レンチウイルスベクターによる HIV-1 複製阻害効果の検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
173. 岩谷靖雅、杉浦 互: HIV-1 NC と APOBEC 3G の逆転写反応への作用. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
174. 松山 翔、大出裕高、柿澤淳子、杉浦 互、星野忠次: 臨床検体由来 Subtype C HIV-1 protease の薬剤耐性機構に関する構造化学的研究. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
175. 柿澤淳子、松山 翔、大出裕高、星野忠次、大高泰靖、岩谷靖雅、西澤雅子、Rajintha Bandaranayake、Celia A Sciffer、杉浦 互: CRF01_AE とサブタイプ B のプロテアーゼの構造解析. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
176. 長谷川直紀、杉浦 互、任 鳳蓉、松田昌和、柴田潤子、田中 博: HARRT 下における連続サンプルを用いた経時的な HIV の宿主内進化解析. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
177. 柴田潤子、任 鳳蓉、西澤雅子、藤野真之、松田昌和、岩谷靖雅、杉浦 互、田中 博: 抗 HIV 薬剤投与下における protease と Gag の共進化に関する研究. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
178. 吉田いづみ、西澤雅子、藤野真之、仲宗根 正、岩谷靖雅、長谷川直紀、柴田潤子、杉浦 互、任 鳳蓉、田中 博: HIV-1 env 遺伝子の多様性進化. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
179. 藤野真之、三浦秀佳、西澤雅子、松田昌和、鈴木寿子、杉浦 互: プロテアーゼ阻害剤耐性 HIV-1 株に対するダルナビルの有効性についての解析. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
180. Hua Yan, Nobuhiko Nomura, Tomoko Chiba-Mizutani, Hideka Miura, Takakazu Takakura, Satoshi Takeda, Wataru Sugiura: New HIV-1 integrase inhibitors identified from small molecule chemical library. 第 16 回抗ウイルス化学療法研究会. 2006 年 5 月 26-27 日, 福島.
181. 岩谷靖雅, レビンジュディス, 杉浦 互: APOBEC3G の HIV-1 の逆転写阻害メカニズム. 第 54 回日本ウイルス学会学術集会. 2006 年 11 月 19 日~21 日, 名古屋.
182. 三浦秀佳, 千葉智子, 滝澤万里, 松田昌和, 西澤雅子, 本多三男, 杉浦 互: ヒト細胞由来レポーター細胞 MARRBLE を用

- いた臨床分離株薬剤感受性検査の評価.
第 54 回日本ウイルス学会学術集会.
2006 年 11 月 19 日～21 日, 名古屋.
183. 柴田潤子, 西澤雅子, 松田昌和, 長谷川直紀, 吉田いづみ, 杉浦 互, 任 鳳蓉, 田中 博: 抗 HIV 剤治療下における Protease と Gag の相互干渉と共進化に関する解析. 第 54 回日本ウイルス学会学術集会. 2006 年 11 月 19 日～21 日, 名古屋.
184. 杉浦 互: HIV 遺伝子検査の進歩と今後の課題-本邦における薬剤耐性検査の現状と今後の展望-. 第 20 回日本エイズ学会学術集会. シンポジウム 1, 2006 年 11 月 30 日, 東京.
185. 小池 満, 三好 洋, 山口洋子, 奥瀬千晃, 中島由紀子, 井上靖之, 鈴木貴雄, 高橋正知, 三浦偉久男, 杉浦 互, 中島秀喜: HIV/H1B 重複感染例の検討-. 第 20 回日本エイズ学会学術集会. 2006 年 11 月 30 日-12 月 2 日, 東京.
186. 古賀一郎, 小田原 隆, 松田昌和, 杉浦 互, 後藤美江子, 中村哲也, 岩本愛吉: 良好な HIV 治療中に合併した梅毒感染前後での HIV プロウィルス塩基配列の変化. 第 20 回日本エイズ学会学術集会. 2006 年 11 月 30 日-12 月 2 日, 東京.
187. 大出裕高, 松山 翔, 柿澤淳子, 杉浦 互, 星野忠次: CRF01_AE HIV-1 における NFV 耐性変異 N88S の出現メカニズムに関する構造学的知見. 第 20 回日本エイズ学会学術集会. 2006 年 11 月 30 日-12 月 2 日, 東京.

図1 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究

目的： HIV検査相談の機会を活用し、
HIV感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計る。

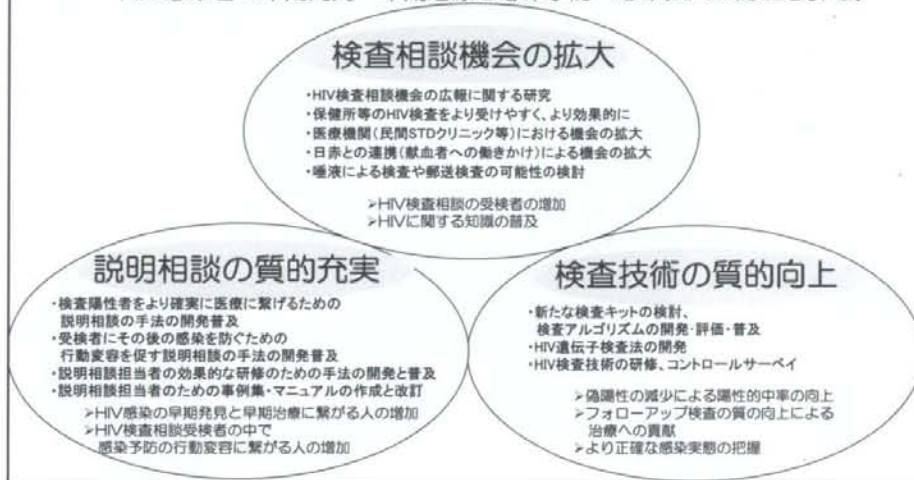


図2 感染者・患者報告数と検査陽性数・検査数(2008)



図3 感染者・患者報告数と検査陽性数・検査数(2007)



図4 感染者・患者報告数と検査陽性数・検査数(2006)

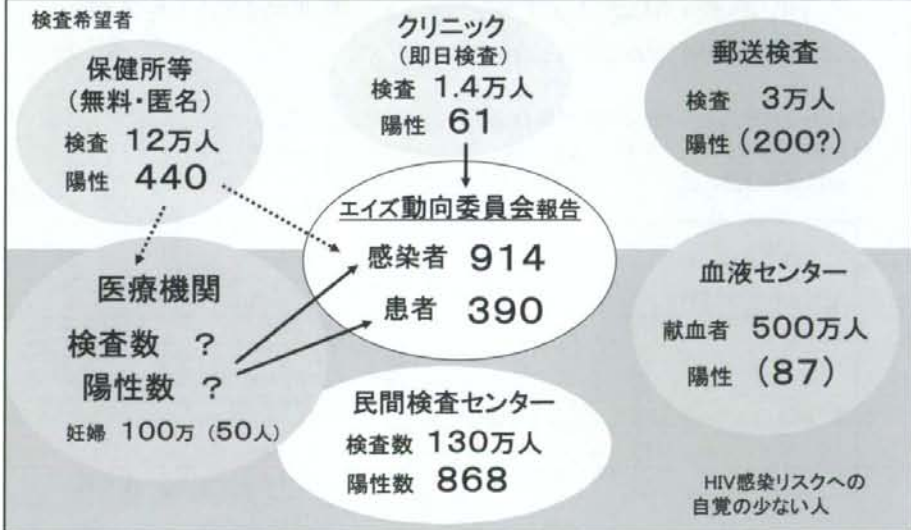
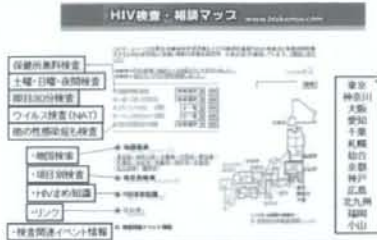


図5

ホームページ
HIV検査・相談マップ
<http://www.hivkensa.com>



2008年12月現在
1日平均アクセス数
約2400件/日

2001年9月からの
合計アクセス数
480万件

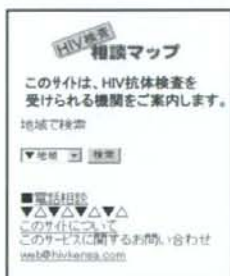


図6

携帯電話版サイト
HIV検査・相談マップ
<http://www.hivkensa.com>

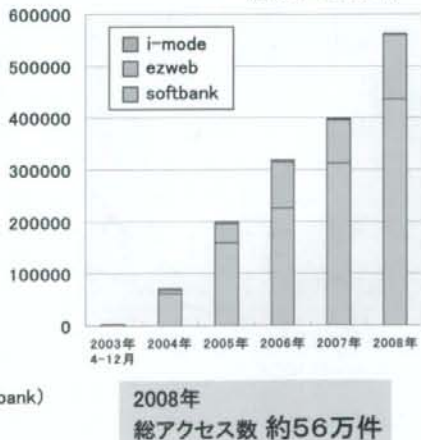
2008年12月現在
1日平均アクセス数
約1540件/日

2001年12月からの
合計アクセス数
155万件



2004年3月より
全ての携帯電話で
(i-mode, ezweb, softbank)
アクセス可能

年別合計アクセス数
(2003～2008年)



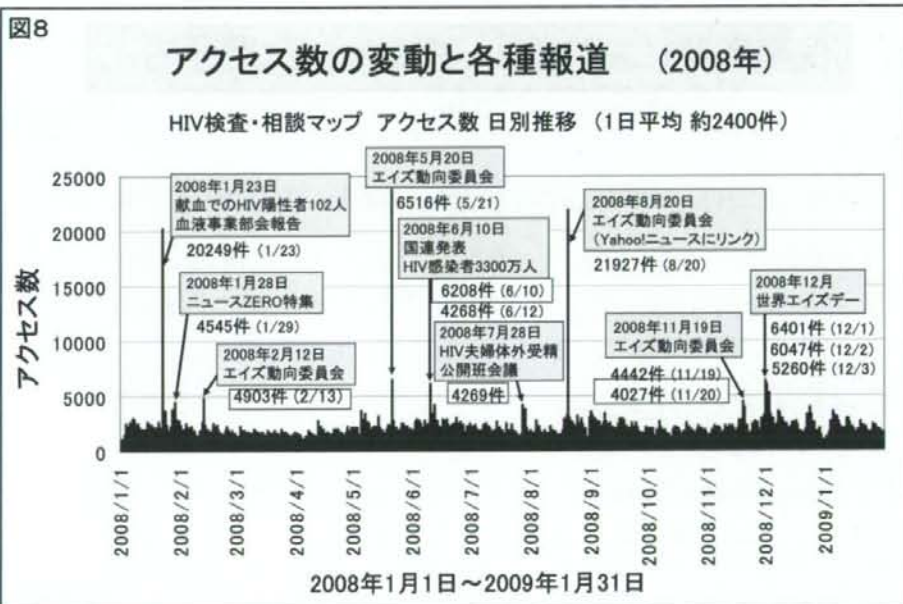


図9

地域別のアクセス数（東京、大阪）

2007年/2008年アクセス数



即日検査実施機関数	東京	大阪
■ 保健所	10/32	0/30
■ 他の無料施設	0/1	1/5
■ 有料クリニック	10/10	3/3

図10

保健所等におけるHIV検査体制に関する
全国調査の結果 (2009年1月23)

HIV検査体制
研究班

保健所アンケート 回答数 (2009.3.2現在) 534 / 593箇所 (90%)

2008年にHIV検査を実施した保健所 533 / 534箇所 (99.8%)

2008年に陽性結果のあった保健所 122 / 533箇所 (23%)

陽性件数 280 / 128, 249 (陽性率 0.22%)

陽性結果を伝えられた件数 → 259 / 280 (93%)

受診したことを把握できた件数 → 208 / 280 (74%)

発生同行調査の報告を行った感染者数件数 → 206 / 280 (74%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 125107 / 127969 (98%))

図11

保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果

(2009年1月23)

厚生労働省
HIV検査体制
調査結果

特設検査機関アンケート 回答数 (2009.2.10現在) 17 / 17箇所 (100%)

2008年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 17 / 17箇所

陽性件数 164 / 25887 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数 → 156 / 164 (95%)

受診したことを把握できた件数 → 123 / 164 (75%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 25246 / 25723 (98%))

2

図12

保健所におけるHIV検査体制に関する全国調査の結果

保健所アンケート			
	2006年	2007年	2008年
アンケート送付数	536	618	593
回答数	504 (94%)	568 (94%)	534 (90%)
HIV検査実施保健所数	501 (99%)	566 (99.6%)	533 (99.8%)
陽性結果のあった保健所数	120 (24%)	130 (23%)	122 (23%)
陽性件数	249 (0.3%)	279 (0.24%)	280 (0.22%)
陽性結果を伝えられた件数	234 (94%)	264 (95%)	259 (93%)
受診したことを把握できた件数	177 (71%)	223 (80%)	208 (74%)
陰性結果を伝えられた件数	84,288 (98%)	114,587 (98%)	125,107 (98%)

図13

保健所におけるHIV検査体制に関する全国調査の結果

特設検査機関アンケート						
	2006年		2007年		2008年	
アンケート送付数	9		11		17	
回答数	9	(100%)	11	(100%)	17	(100%)
陽性結果のあった検査機関	9	(100%)	11	(100%)	17	(100%)
陽性件数	191	(0.9%)	195	(0.80%)	164	(0.60%)
陽性結果を伝えられた件数	181	(95%)	180	(92%)	156	(95%)
受診したことを把握できた件数	132	(69%)	141	(72%)	123	(75%)
陰性結果を伝えられた件数	21,177	(98%)	23,943	(98%)	25,246	(98%)

図14

保健所HIV検査
— 即日検査と通常検査 —

(533件中)



図15

各種HIV検査の実施状況（保健所数の割合）



図16

各種HIV検査の受検者数 (%)



図17

HIV以外の性感染症検査を行っているか

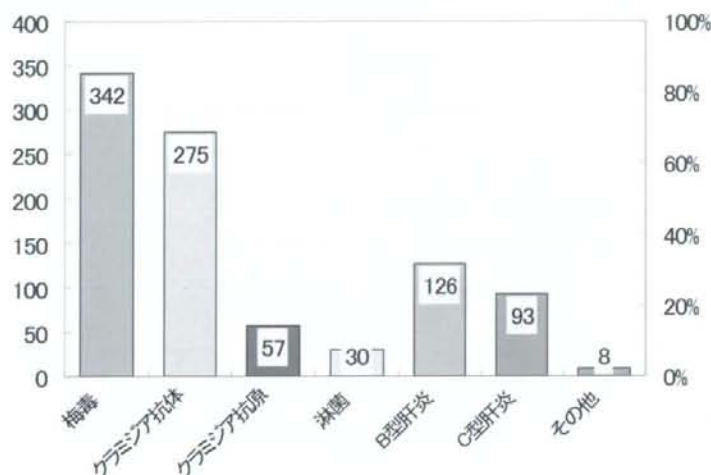


図18 民間クリニックとの連携
一即日検査の導入HPでの紹介
＜2008年度 25ヶ所＞

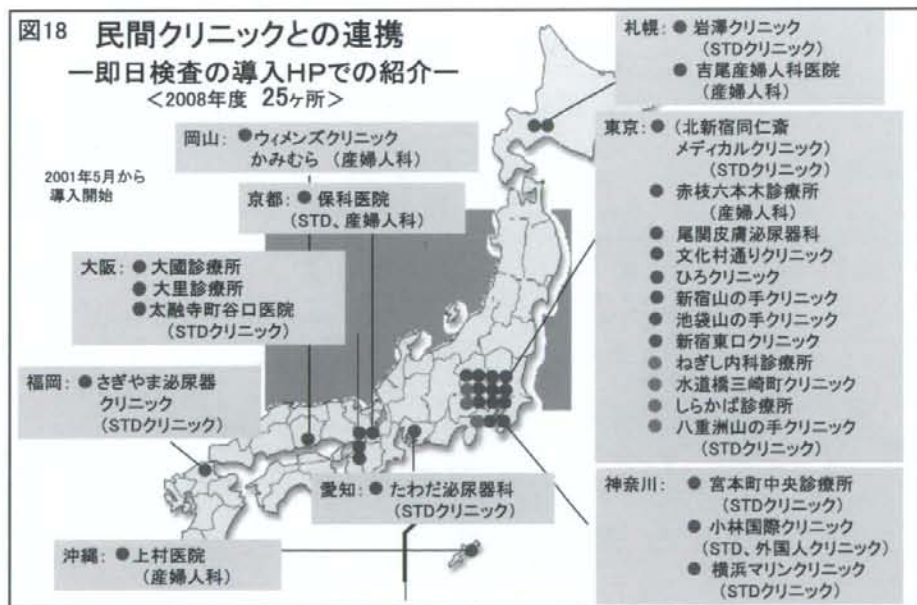


図19

民間クリニックでのHIV即日検査実施状況
即日検査数と確認検査陽性数の推移（2001～2008年）

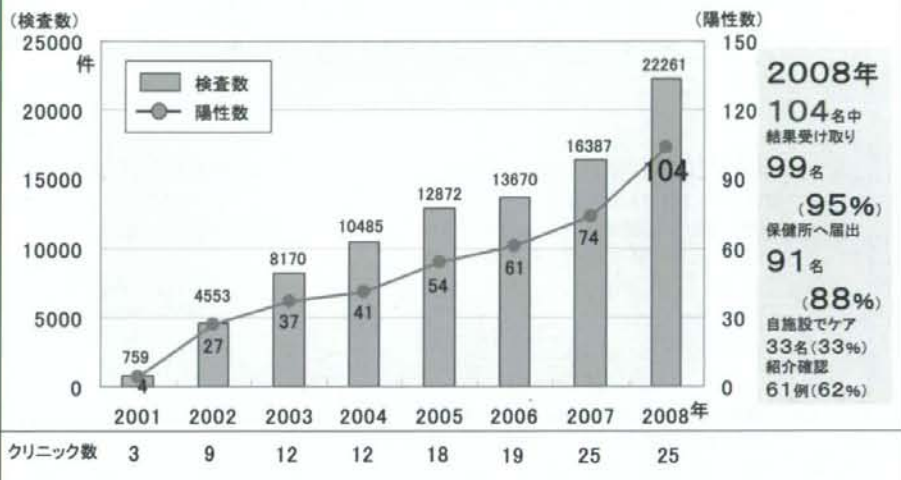


図20

NAT検査に用いる検体のプール遠心濃縮法（1999-2008.3）

プール検体の遠心濃縮によるサンプル調整（標準法）

抗体検査陰性の検体を200μlずつプールする。

（8検体までを2mlのチューブ1本にプールする。32検体までを1プールとする）

15000rpm 4℃ 2時間遠心

上清を捨て、ペレットをPBS(-)200μlで溶解する。

（32検体分まで同じPBS(-)200μlで溶解する。）



アンプリコアHIV-1モニターVer.1.5キットを使用し、標準法で測定

（1検体あたり200μl使用、検出限界400copies/ml未満）

図21 NAT検査に用いる検体のプール遠心濃縮法(2008.4-)

プール検体の遠心濃縮によるサンプル調整(標準法)

抗体検査陰性の各検体を200~1500 μ lずつチューブに入れる。

(200 μ lでは8検体までを2mlチューブ1本にプールする。)



上清を捨て、各検体のペレットをHIV陰性血漿あるいはPBS(-)を用い1500 μ l~1600 μ lで溶解する。

(検体量1500 μ lの時は各ペレットを同じ溶解液1500 μ lで再浮遊、200 μ lの時は32検体分まで溶解液1600 μ lで再浮遊する。)



コバスタqMan HIV-1「オート」で測定

(1検体あたり反応系で800 μ l使用、検出限界は検体量200 μ l使用(8倍希釈)で320copies/ml未満、1500 μ l使用で40copies/ml未満)

図22

HIV検査機関でのNATスクリーニング検査数(1999~2008)

抗体陰性者全例を対象にNAT実施している検査機関	東京都	神奈川県	横浜市	川崎市	大阪府	合計
	南新宿保健所2箇所(2006年まで)	保健所2箇所	土曜検査1箇所	日曜検査1箇所	即日検査クリニック2箇所 +クリニック3箇所	検査機関11箇所
抗体検査数	6855	3834	9218	10526	24605	55038
抗体陽性数	52	11	25	36	123	247
抗体陽性率	0.76%	0.29%	0.27%	0.34%	0.50%	0.45%
NAT検査数	6685	3818	8865	10437	21754	51559
NAT陽性数	0	0	0	2	8	10
NAT陽性率	0%	0%	0%	0.019%	0.037%	0.019%

図23

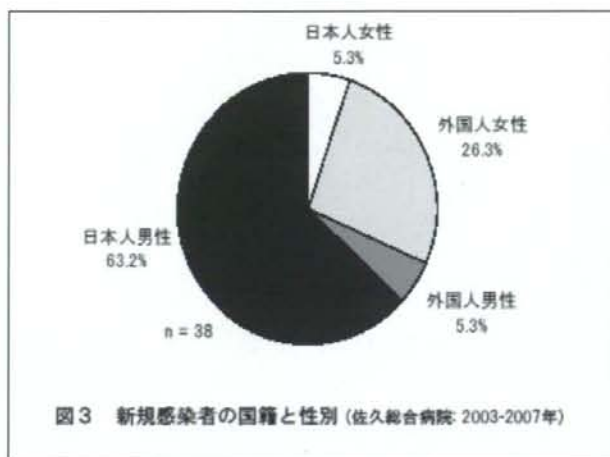


図24

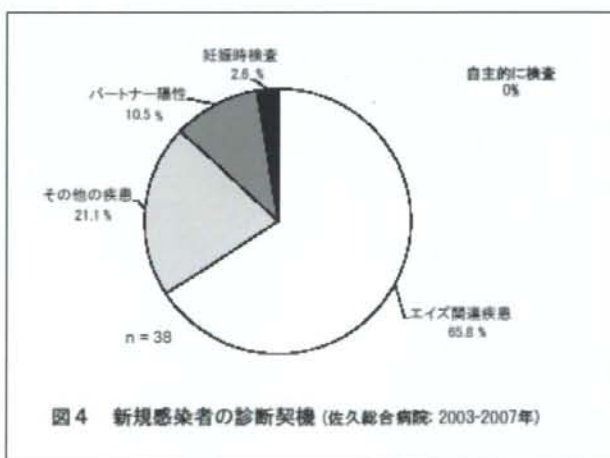


図25

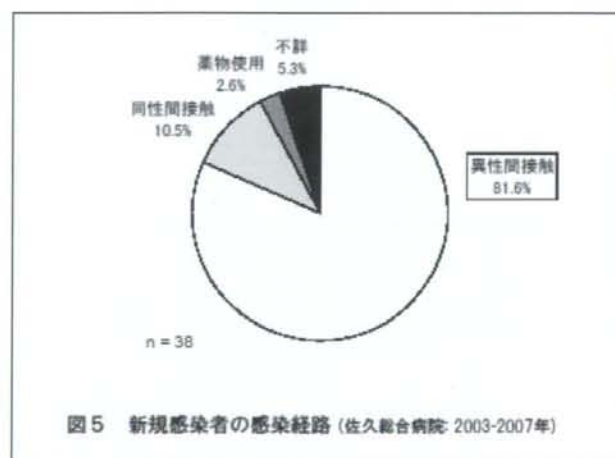


図26

表6. 北海道・市町村議会議員がHIV検査を受けない理由

項目	全体 n (%)	<60歳 n (%)	≥60歳 n (%)
感染しているとは思わないから	1105 (93.9)	580 (92.7)	525 (95.3)
心の準備が出来ていないから	25 (2.1)	15 (2.4)	10 (1.8)
感染していたら困るから	3 (0.3)	0 (0.0)	3 (0.5)
検査方法を信用できないから	3 (0.3)	3 (0.5)	0 (0.0)
検査の匿名性を信用できないから	3 (0.3)	3 (0.5)	0 (0.0)
検査済	12 (1.0)	10 (1.6)	2 (0.4)
その他	26 (2.2)	15 (2.4)	11 (2.0)

図27

HIV感染者の国籍別性別 年次推移

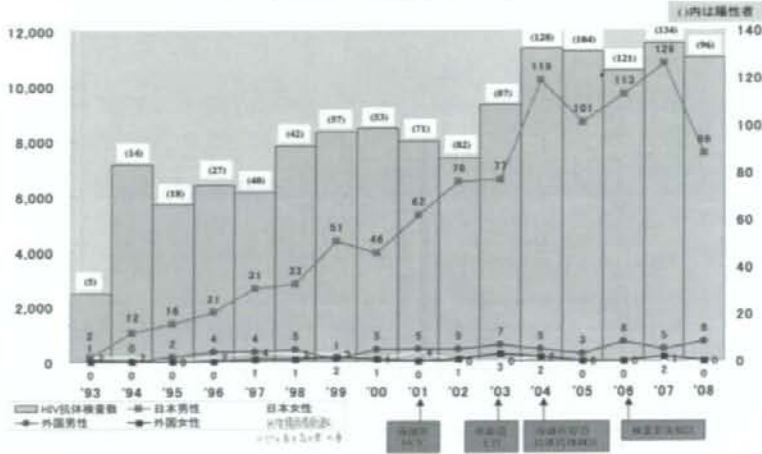
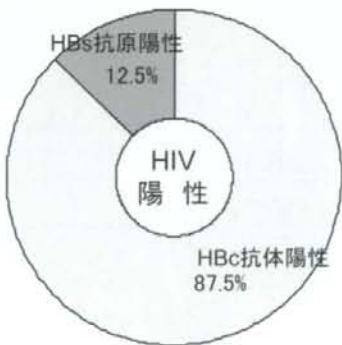


図28

南新宿HIV陽性8症例の
B型肝炎罹患率



南新宿HIV陽性男子46症例の
STD罹患率

